

海と日本プロジェクト 映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜

- ・上映会とミニトーク
- ・作文コンクール



主催／100万人の「氷川丸ものがたり」上映を支援する会

100万人の「氷川丸ものがたり」上映を支援する会は、日本財団「海と日本プロジェクト」の助成を受けて、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して、人と人がつながることを目的として、本事業を実施しています。

映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜・保土ヶ谷区

9月22日(木・祝) 保土ヶ谷公会堂



上映会前のミニトークでは、第28代氷川丸船長の金谷範夫氏にご登壇いただきました。氷川丸の歴史や船上の仕事などを子どもたちにも分かりやすい言葉で丁寧にお話しいただきました。大雨注意報にもかかわらず370名が参加してくださいました。

<参加者の声>

船長の話聞いてから観たので良くわかった。
孫と一緒に来た、家族で氷川丸のことを話せる機会になった。

映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜・金沢区

9月24日(土) 横浜市金沢産業振興センター



上映会前のミニトークでは、元大型船国際航路船長、現在一般社団法人海洋会会長 山本勝氏にご登壇いただきました。氷川丸の歴史を通して、この映画で船の仕事の重要性や海の大切さを改めて考えるきっかけにしてほしいと話されました。雨にもかかわらず129名が参加してくださいました。

<参加者の声>

横浜に住んでいて氷川丸にこんな歴史があったことを知らなかった。
感動して涙がでました。

映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜・旭区

9月25日(日) 旭公会堂



上映会前のミニトークでは、「氷川丸ものがたり」原作者で映画製作者でもある、伊藤玄二郎氏にご登壇いただきました。なぜこのものがたりを子どもたちに伝えたかったかなどお話いただきました。
171名が参加してくださいました。

<参加者の声>

氷川丸にこんな歴史があったことを知らなかった。
次郎のような立派な船乗りになりたい。
船長さんがみんなを守ってくれた。

映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜・中区

10月1日(土) 県民共済みらいホール



上映会前のミニトークでは、「氷川丸ものがたり」原作者で映画製作者でもある、伊藤玄二郎氏にご登壇いただきました。なぜこのものがたりを子どもたちに伝えたかったかなどお話いただきました。238名が参加してくださいました。

<参加者の声>

自分が勤めている会社が氷川丸を造った会で誇りをもっている、子どもたちにこの映画を観せて感じてもらいたかった。
氷川丸の歴史を知らなかった。帰りに氷川丸に行きます。

映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜・西区

10月2日(日) 横浜市教育会館



上映会前のミニトークでは、第28代氷川丸船長の金谷範夫氏にご登壇いただきました。氷川丸の歴史や船上の仕事などを子どもたちにも分かりやすい言葉で丁寧にお話いただきました。
160名が参加してくださいました。

<参加者の声>

船長になりたい。
氷川丸の歴史を初めて知った。
氷川丸みたいに強い船を造ってみたい。

映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜・泉区

10月30日(日) 泉公会堂



上映会前のミニトークでは、「氷川丸ものがたり」原作者で映画製作者でもある、伊藤玄二郎氏にご登壇いただきました。なぜこのものがたりを子どもたちに伝えたかったかなどお話いただきました。
328名が参加してくださいました。

<参加者の声>

大変感動しました、子どもと氷川丸に行ってみます。
船乗りになって大きな船を動かしてみたい。
戦争中、船はいろんな役目を果たしていたんだと思った。

映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜 作文コンクール

テーマ:横浜、海そして氷川丸 応募資格:横浜市内通学の小・中学生

審査員:山崎洋子(作家)、太田治子(作家)、伊藤玄二郎(エッセイスト・「氷川丸ものがたり」原作者)、衛藤征史郎(海事振興連盟会長)、山本勝(海洋会会長)、金谷範夫(第28代氷川丸船長)

賞:小学生の部・中学生の部、各部につき最優秀賞1作品、優秀賞3作品、入賞5作品、学校賞1校。

応募締切:2016年11月20日 発表:2016年12月20日 表彰式:2017年2月19日(会場 氷川丸船内)

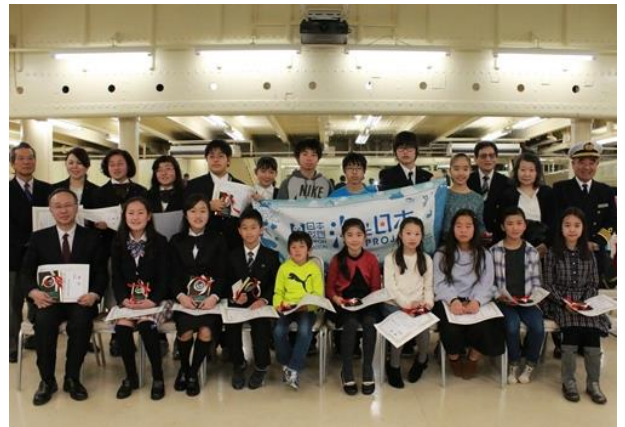


審査会

2016年12月12日、最終選考審査会が行われました。学年のみオープンにしての審査です。各審査員より候補作を挙げてもらい、討論が重ねられ、各賞が決定しました。

表彰式

2017年2月19日、氷川丸の船内で行いました。1名を除いた入賞者と保護者を含め62名が参加してくれました。船長さんから一人ひとりに、表彰状と盾、記念品が授与されました。



映画「氷川丸ものがたり」上映会in横浜 作文コンクール 受賞者

■小学生の部

- 最優秀賞 作品名:横浜 最高! 受賞者:諏訪文音(6年 旭区)
優 秀 賞 作品名:わたしと氷川丸 受賞者:松本茉莉花(2年港南区)
作品名:「氷川丸ものがたり」をみて 受賞者:竹 伶子(3年金沢区)
作品名:氷川丸の活やく 受賞者:横山倅太郎(4年泉区)
入 賞 作品名:知ってる、氷川丸のこと 受賞者:古谷宇海(6年金沢区)
作品名:氷川丸ものがたりを見て 受賞者:山本詩葉(4年戸塚区)
作品名:横浜、海そして氷川丸 受賞者:村上真尋(5年西区)
作品名:氷川丸ものがたり 受賞者:實川瑞貴(3年泉区)
作品名:氷川丸との努力・一生 受賞者:村上和菜(5年旭区)
学 校 賞 横浜市立岡津小学校

■中学生の部

- 最優秀賞 作品名:「氷川丸ものがたり」を読んで 受賞者:長尾真侑(3年都筑区)
優 秀 賞 作品名:貨客船氷川丸 受賞者:内海雄太(3年神奈川区)
作品名:氷川丸ものがたりを観て 受賞者:高橋力大(3年町田市)
作品名:小さくて大きなものがたり 受賞者:小出真穂(3年緑区)
入 賞 作品名:私と氷川丸 受賞者:山本萌葉(1年戸塚区)
作品名:氷川丸ものがたり 受賞者:金田 樹(1年あきる野市)
作品名:横浜の海の主役“氷川丸” 受賞者:中村唯稀乃(2年旭区)
作品名:ぼくにとっての氷川丸 受賞者:田中温人(3年青葉区)
作品名:氷川丸ものがたりを観て 受賞者:月館苑花(3年町田市)
学 校 賞 星槎中学校

●総 評

確実に時は流れている。作品を寄せた子どもさんたちは戦争という言葉の響きに全く実感がなかったという。しかし、本を読み映画を観てその悲惨さに触れ、平和を考える大きなきっかけになったという。

また、海、そしてその上を走り異国の文化と人を運ぶ船に夢と冒険心を覚えたと書いた作品も多かった。この取り組みが、海洋国日本にとって多くの子ども達が海そして安全に航海ができる平和の大切さを知るいい機会になったと思う。

伊藤 玄二郎(『氷川丸ものがたり』原作者、アニメーション映画「氷川丸ものがたり」製作者)



【最優秀賞】（小学生の部）

横浜 最高！

六年（旭区） 諏訪 文音

「横浜ってやっぱり最高。」と氷川丸ものがたりをみて思った。今まで「あつ氷川丸だ。」と思うだけで通り過ぎていた氷川丸。でも、この映画を見てからは、ただ見るだけではなく、歴史を感じながら見るようになった。その理由として、心にひびいたことが二つある。

まず、客船から病院船という過酷な船になっても、機雷にひっかかっても、決してこわれなかった氷川丸。そのような困難をのりこえてきた氷川丸が今でも残っていることに感動した。もしも、私が氷川丸のような不幸の連続にあったとしたら、させつして、強く生きることでできなくなると思う。でも氷川丸は、乗組員といっしょに強く、強く生きていたのだ。

そしてもう一つ、生きること、夢を追い続けることのすばらしさも学んだ。苦しい戦争のなか、たくさんの人と関わり、協力し、生きていた主人公達。守り合い、守られ合い、全員が家族になって生きていた主人公達。平和があるから命がある、私は心からそう思った。それに、主人公の夢をあきらめない心にも胸をうたれた。小さなころからもっていた氷川丸への主人公の夢。その夢を実現するため、見習いから始めて一人前の乗組員になった。私には今、はつきりとしたしよう来の夢はない。しかし、しよう来自分がこうかいしないよう、今からいろいろなることを学び、自分が「これだ。」と決めた夢がもてた時、その夢を実現できるよう、努力をしたい。

私は「氷川丸ものがたり」から、人生の教訓をたくさん得ることができた。そして横浜の顔、氷川丸に深い、深い歴史があったことも知ることができた。この歴史深い氷川丸をこれから守り続け、横浜をより活発なまちにし、世界一すてきな場所にしたい。私は、横浜市民で良かったと心の底から思った。「やっぱり横浜は最高。」

講評 氷川丸の歴史と自分の夢をオーバーラップさせ、これからも氷川丸を見守っ

ていきたいという内容は頼もしく素晴らしい。（衛藤征士郎）

【優秀賞】（小学生の部）

わたしと氷川丸

二年（港南区） 松本 茉莉花

小さいころ、氷川丸の前でしゃしんをとったものがまだのこっています。山下公園の近くのホテルで、かぞくで大みそかを氷川丸のきてきをききながらすごしたときのしゃしんだそうです。おかあさんは、「よこはまらしくて、大すき。」と、おきにいりのようです。

氷川丸の前や近くを通ったことはあっても、中に入ったことがなかったので、この前はじめて入りました。食どうやトイレ、おふろもついていました。まるでうごくホテルのようです。びっくりしました。その中でも食どうやじどうしつの近くが気に入りました。食どうには、ぎんの食きやテーブルがあつて、メニューも多くてびっくりしました。ぎんの食きは、ふつうの食きより二、三ミリくらいあつくつくつてあります。船がゆれたとき、おちてもわれないうようにつくつてあるそうです。ゆれる船の中でも、たのしく食じができるようにしてありました。食どうの近くにじどうしつがありました。じどうしつは、ピンク色のかべで、大きなくぼがありました。たのしい気もちになる、かわいいへやでした。

氷川丸も六十年前までは、アメリカとよこはまの海をわたっていたそうです。船で行くのはどんなりよ行だったのだろうと思いました。船の中を歩きながら、むかしの氷川丸はどんなふうだったのだろうと思いました。

氷川丸に入ったとき、わたしがおどろいたように、むかしの人たちもびっくりしたのかなと思うとふしぎなきもちでした。この氷川丸には、何十年分ものいろんな人の思い出がつまっている気がします。

もし、氷川丸と話せたら、どんな話をきかせてくれるのかな、と思いながら帰りました。

講評 最後の「もし、氷川丸と話せたら、どんな話をきかせてくれるのかな、と思いなが

ら帰りました」が素晴らしい。氷川丸を身近に感じていて、家族との思い出も大事にしていることが伝わってくる。（太田治子）

【優秀賞】（小学生の部）

「氷川丸ものがたり」をみて

三年（金沢区） 竹 伶子

わたしは、夏休みにおばあちゃんとお母さんとお兄ちゃんといっしょに「氷川丸ものがたり」の映画を見に行きました。おばあちゃんとお母さんは横浜生まれ横浜そだちで船にはのった事がありますがれきしは知らないと言っていました。

氷川丸ができた昭和五年のころは、お食事も部屋もホテルのようなごうかな船でした。しかしせんそうが始まると病院船として船全体を真白にぬり、えんとつの所に赤十字のマークをつけました。せんそうでたたかっけがをした六万人の人をはこんだそうです。赤十字のマークがついている船にぎよらいを落としてはいけないのに落とされてしまいました。でも氷川丸はちんぼつしなかつたのでじょうぶなんだなと思いました。

せんそうが終わって次の氷川丸のやくめは外国にとりのこされた日本人たちを日本にひき上げる仕事でした。なかなかものか客船の色にぬりかえる事ができず、私も船員たちと同じ気持ちでくやしかったです。せんそうが終わった昭和二十六年にやっと本当の氷川丸の色にぬりかえてアメリカまでお客さんをはこぶ仕事にもどりました。六万せきい上あつた船がせんそうですめられて氷川丸一船だけがのこっていることに感動しました。

そして私は、どうしても氷川丸が見たくなり山下公園に行き乗ってきました。客室の毛布がいろいろな形におつていて映画と同じだなと思いました。氷川丸の中はめい路のように広く本当にホテルのようでした。

「ここにへいたいたちがねかされていたんだね。」
と家族とたくさん話をしました。

私は、住んでいる町、横浜、日本、世界のれきしにきょう味をもつていこうと思います。

講評 観察眼がいきわたっている。映画を見てから実物を見に行ったり、家族と氷川丸に

ついて話あったりしたということは、この映画によって拡がりができたということ。

それがとても良かった。（山崎洋子）

【優秀賞】（小学生の部）

氷川丸の活やく

四年（泉区） 横山 倅太郎

昭和五年から三十五年まで、三十年の間、か客船や、戦争で負しようした人を治りようする病院船などいろいろな船として活やくした氷川丸。多くの船が、アメリカのミサイルでちんぼつしたけれど、氷川丸はちんぼつしませんでした。さすが「きせきの船、氷川丸」と思いました。やっぱり戦争は、してはいけないなと思いました。

ぼくが「氷川丸ものがたり」を見て、一番感動した場面は、最後のほうに、氷川丸の船内に海水が入ったときの次郎の行動です。戦争のとき、こうげきをうけて氷川丸がかたむいたとき、船を平行にするために、次郎が機関室の人と一しよにがんばって船を助けたところです。その場面は、感動しただけではなく、次郎にとってお母さんみたいなそんざいなのだなと感じました。親子のきずなが氷川丸と乗っている人々を助けたのだと思いました。

映画を見た後、実さいに山下公園に氷川丸を見に行つて来ました。前に見たときは、映画を見ていないので、氷川丸という名前も知りませんでした。なので、ただ、大きい船だなあと思っただけでした。「氷川丸ものがたり」を見た後に氷川丸を見てみると、「これが八十六年前の船、氷川丸かあ。かっこいいな。」とわくわくして、ずっとながめていたい気持ちでした。

そのとき、ふと海を見ると、ごみがういていることに気付きました。きっと次郎が見た海は、青くてとてもきれいな海だったのではないかと思いました。海やまちにごみをすてはいけない。ぼくたち一人一人が気を付けなければなりません。氷川丸が、いつまでもかがやき続けるきれいな海を守るために。

講評 作者はアニメ映画「氷川丸ものがたり」を観た後に、山下公園に足を運び、氷川丸の船上に立った。改めて「奇跡の船」に覚えた感動がよく伝わってくる。

（伊藤玄二郎）

【最優秀賞】（中学生の部）

「氷川丸ものがたり」を読んで

三年（都筑区） 長尾 真佑

横浜の山下公園に係留されている「氷川丸」は、私の通学風景の一つだ。今回この本に出会って初めて、この船のたどってきた軌跡を知る事ができた。始めは外国航路の豪華貨客船として、戦時中は病院船として、終戦後は引揚船として多くの人々の命を救い、その後再び貨客船として活躍した。

現在の内部の装飾はヨーロッパ調の豪華なものであるらしい。しかし、この本の大部分のページは、負傷兵を運ぶ病院船としての様子や、引揚船としての記述であった。病院船というものがあるのは知っていたが、それが希望と絶望を乗せた大変な任務であった事がよくわかった。何十回となく南方の島々をめぐる、負傷した兵士たちを治療しながら連れ帰った。デッキには火葬施設もあったようだ。中には、栄養失調やマラリア、赤痢の兵がとても多かったらしい。日本がどれほど愚かな事を長く続けていたかと思うと悲しい。氷川丸に乗ることができた人はまだ良かったのかもしれない。私の曾祖父も戦時中にガダルカナル島に赴兵したが、途中で病気になって戻ってきたとのことである。もしかして氷川丸に乗って帰ってきたのかもしれない。今となってはもう話を聞くことはできない。

現在氷川丸は市民の強い要望で、八十六歳となった今でも、その姿を私たちに見せてくれている。美しい横浜の港に係留する姿は、悲しい歴史を伝える重要な役割を担っているのだとわかった。起こってしまったことは消すことはできない。戦争があったことを記憶から消さずに、平和であることの尊さを感じ、悲しい間違いを繰り返さない強い心を育み、持ち続けていけたらいいと思う。明日も朝日に照らされる氷川丸を見るのが楽しみだ。

講評 通学路に氷川丸があり、氷川丸ものがたりの本を読んで、この船は、希望と絶望があると人生に重ねて表現していること。（金谷範夫）

【優秀賞】（中学生の部）

貨客船氷川丸

三年（神奈川県） 内海 雄太

僕は、横浜市民として、氷川丸を誇りに思います。豪華貨客船として多くの人や物を運び、戦争でも沈む事なく多くの命を救った氷川丸に敬礼を送りたいと思います。

一九三〇年に就役、当時最新鋭のディーゼルエンジンを装備し、船内も海外の乗客向けに洋風の客室やVIPルームなどの豪華設備とし、船底を六つのパーテーションに分け、船のバランスが崩れてもパーテーションに注水してバランスを保ち転覆を防ぐ仕様と、どこを見ても高スペックな船で、当時の人は魅了されたそうです。戦時中は病院船として活躍し、三度の触雷を受けても沈まなかった事から、「奇跡の船」と呼ばれたそうで、現在は山下公園に展示されており、僕も一度この目で見ております。

「氷川丸ものがたり」では、主人公の次郎と氷川丸乗組員の関係がクローズアップされており、感動しました。特に、次郎を氷川丸の乗組員にしてくれた最初の船長が氷川丸を降りる時に、別れを惜しんで泣いている次郎に対して、「泣き虫は船を降りてもらう」と一言言った場面は、思わず涙をこぼしてしまいました。また、氷川丸の乗組員の厳しさを表現した別名「軍艦氷川」を聞いて、多くの人もてなす仕事として厳しいのは当たり前だなど思い、重く心に受け止めました。

多くの海を渡り、荒波にも負けず、乗組員と共に航海する姿は、まさに「母」である、と僕は考えます。

「氷川丸ものがたり」では先述の二つの言葉の他にも、数々の名言が存在します。そして僕は、その数々の名言を受けとめ、自分の今後に活かして行きたい、と思います。

講評 船そのものについて興味をもったこと、そして主人公と乗組員の姿や言葉に感銘を

うけたことが素直に表現されている。（山本 勝）

【優秀賞】（中学生の部）

氷川丸ものがたりを観て

三年（町田市） 高橋 力大

この映画を観る前、自分は戦争の残酷さをよく知らなかった。昔自分は第二次世界大戦中の艦船が好きだったが、氷川丸は全く知らなかった。

この映画を観たとき、自分の戦争に対する考えが変わった。よくゲームセンターなどで人を殺すゲームなどをして楽しんでいたが、現実的に考えるとひどく残酷だ。映画の中でも銃でうたれた人が苦しみながら死んでいくシーンもあった。心が痛んだ。

氷川丸も客船から軍用船にされてしまっていた。氷川丸の船員たちから見たらとても残念だろう。主人公もその中でたくさんの死を見てきた。その中には親しい仲間もいた。自分が同じ目にあつたらどれだけ苦しいだろう。

結果的に日本は戦争に負けてしまうのだが、この後、どうやって今に至ってきたかは自分でもよく考えたことはないが、これをきっかけに戦争がどれだけ残こくかよく考えさせられた。横浜の海には釣りなどでよく行くが、今ではとてもおだやかだと思う。もう、このような悲惨な戦争が起こらないように願っている。

講評 映画を観る前までは、武器がカッコいいとかゲームで戦争ものが楽しいと思ってい

たが、映画を見たことによって、戦争の残酷さを知ったというポイントの押さえ方がいい。（山崎洋子）

【優秀賞】（中学生の部）

小さくて大きなものがたり

三年（緑区） 小出 真穂

「次郎」という、どこにでもいる普通の男の子。その少年が、幼き日の夢を叶え、厳しい社会に入り、さらには戦争というとても大きく大きな壁に挑み、自分だけの「ものがたり」を創っていく。

この物語は現代と似ているところがいくつもあると、私は感じます。一隻の船に強い憧れを抱き、それに乗りたいという願いを叶える。先輩にしかられながらも、毎日楽しく日々を過ごす。今思えば昭和時代の話だったのかと、疑問も持ちます。

攻撃され、氷川丸が沈んでしまうという、危機的な状況でも次郎は立ち上がり、船を救いました。氷川丸は、自分たちを守ってくれる母親だと信じこみ、それを助ける姿。まるで氷川丸を船ではなく、一人の人間として守っているようで、かっこいいと思いました。

兵として出された後、怪我をしたのがきっかけで想いを寄せていた女性と再会。これも最近テレビでよく観ます。まさにこの時代をそっくりそのまま次郎の時代に持っていったようにも思えました。

また、氷川丸は次郎の人生をつなぐ架け橋に見えました。夢を叶えただけではなく、仕事をして、恋をして、生活をして、さらに大切な人の夢も叶え、彼の死を見届けました。

現代でも、一つのきっかけがあって、その人の人生が決まることがあります。次郎にとって、それが氷川丸だったのです。

次郎という少年の、周りから見れば小さな「ものがたり」。しかしたった一つの、次郎だけの大きな「ものがたり」。現代でもそれは同じ。誰にも自分だけの人生がある。

次郎の、小さくて大きな「ものがたり」を映画で感じました。

講評 氷川丸を船ではなく、一人の人間として守っているように感じたところが、面白いと思いました。（太田治子）